

KSKR だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

大家連令和2年度の活動について

副会長 奥村 勲

令和2年に入って新型コロナウイルスが中国で感染拡大し、その後日本にも感染者が発生するようになりまし

しかしまだそんなに恐怖感が無かったように思います。3月、4月になり大阪でも感染が拡大し、大家連の総会も3月の臨時総会、5月の総会も「書面総会」で対応せざるを得なくなりました。そして大家連としての活動にも多大な制約を受ける事となりました。

「公益事業」について

①大阪府の委託事業である精神障害者社会参加事業の「精神保健福祉講座」については、7月「三密」を避けるために参加人数を限定し実施致しました。8月は講師の所属する大学より県外出張禁止が出されて中止せざるを得なくなりました。9月以降はコロナウイルス感染拡大が益々大きくなり、残り全ての講座を中止とせざるを得なくなりました。

②大阪府精神障がい者相談支援事業である「家族相談事業」についても5〜7月は何とか例年通り実施致しましたが、8〜12月中旬は月、水、金の週3日、時間も11時より15時までの4時間に限定し実施致しました。令和3年1月、2月は、月、水、木、金の週4日、時間は11時より15時で実施致しました。令和3年3月も2月と同じような実施となると思っています。

③共同募金助成金による啓発事業の「だいかれん誌」発行は、「三密」を避けるため、編集会議はメールで行うなどにより、何とか予定通り年4回の発刊を実施出来ました。

「私たちの取り組み」について

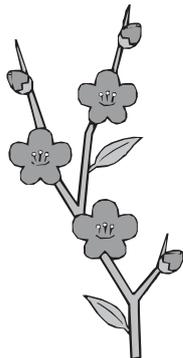
①大阪府・大阪市との意見交換会も対面では出来ず、書面での回答となります。また、このコロナ感染拡大の中、「緊急要望書」を大阪府・大阪市に提出いたしました。

②啓発事業である「仲間づくり」の「配偶者・パートナーの集い」、「おしゃべりカフェ」の実施にも影響を与えて計画通りの実施には至りませんでした。

この様に、コロナウイルス感染拡大は多大な影響を与えました。そんな中でも何とか最小限の活動が出来たと思っています。皆様の期待に全面的に答えられなかったことについては色々反省する事もあります。今後「危機管理」についても検討しておくことが大切だとツクツク感じた1年でした。

目次

- ◆ 大家連令和2年度の活動について 1頁
- ◆ 大阪市の総合区案 2頁
- ◆ 大阪市会への陳情書の提出と記者会見 3〜4頁
- ◆ 心の方々との出会い50年余し 3〜4頁
- ◆ 尽きることのない課題と関わり 4〜7頁
- ◆ 家族の思い 4〜7頁
- ◆ 家族会との出会い 4〜7頁
- ◆ 病気の娘を持って 4〜7頁
- ◆ 賛助会費報告・編集後記 8頁



大阪市の総合区案 大阪市会への

陳情書の提出と記者会見

成長戦略よりも、保健・医療・福祉の充実を

「広域行政一元化条例」「8区総合区」に関して
陳情書と緊急要望書を提出

(東成家族会 合田享史)

2月3日、大家連と大阪市内家族会会員有志として、大阪市内で進められようとしている「広域行政一元化条例」「8区総合区」に反対する陳情書と緊急要望書を提出しました。

この行動に取り組むことになったきっかけは、大家連の2020年度の大阪市への要望に、上記の2件に反対する項目も盛り込んでほしいと、私が見解を出したことです。さっそく理事会で賛同をいただき、大阪市内に緊急要望書を提出するとともに、2・3月市会に向けて陳情書を提出し、記者会見も行って思いを訴えることに決まりました。

緊急要望書と陳情書の内容は、障害当事者と家族の生活実感に根ざしたものにしよう、私も文案を提案し、三役会、理事会で議論を重ねられ、次のようにまとまりました。

まず、大家連も反対運動に取り組んだ「大阪都構想」が住民投票で二度も否決されたのにもかかわらず、大阪市内がそれと同様の「広域行政一元化条例」「8区総合区」を進めようとしていることに異議を唱えています。そし

て、次の2点の要望を掲げました。

1点目は『身近な地域福祉体制を弱体化させる「8区総合区」への動きを取り止めてください』。現行の24区の保健福祉センターや社会福祉協議会で展開されている事業は、徒歩・自転車を通える身近な範囲で行われていてこそ意味があり、8区への合区は、地域福祉の弱体化を招くことを述べています。

2点目は『成長戦略』を志向する制度改編をストップし、コロナ対策に集中してください』。新型コロナウイルスのまん延で当事者も家族も大きな不安を抱えている中、「成長戦略」ではなく、保健・医療・福祉の充実に取り組むべきと述べています。

2月3日の提出行動には、倉町会長、大野副会長が赴かれ、大阪市内家族会会員有志として私も同行させていただきました。

最初に大阪市役所8階の市会事務局を訪ねて、市会議長あてに陳情書を提出。その後、5階の市政記者クラブで記者会見を行いました。8社の記者の方が出席し、私たちの思いを取材してくださいました。

この陳情書は2月19日の市会財政総務委員会審査され、不採択(維新)、採択(自民・市民第一)、引き続き審査(公明)と意見が分かれ、いずれも過半数

に達しなかったため、「引き続き審査」という結論になりました。委員会の様子は大阪市のウェブサイトの「インターネット議会中継」で動画が公開されていますので、興味のある方はご覧ください。

最後に、同じく5階の副首都推進局を訪ねて、松井市長あてに緊急要望書を提出しました。これについては後日、文書回答をいただくことになりました。

記者会見では、記者の皆さんは、障害当事者と家族の生活実感について初めて聴くという感じの反応で、熱心に耳を傾けてくださいました。今回の行動を機に、私たちが抱えている問題を知っていただくことができたのは、大きな意味があったと思います。



陳情書を提出する倉町会長



記者会見の様子

心の病の方々の出会い50年余し 尽きるじよのない課題と関わり

NPO陽だまりの会 河野 和永

日頃から、大家連の皆様には途切れなく活動を継続されている事に敬意を表します。

私事ではありますが、精神障害者の生活の場づくりを考える市民の会「陽だまりの会を、当事者・家族をはじめ賛同して下さる市民の方々と共に立ち上げ、地域にあつて精神障害を有する方々があたり前に生きることが出来る地域状況を作ることをめざして動いて来ましたが、この度、理事長を辞退しこれまでの活動に一定の区切りをつけることにいたしました。

この間の活動の振り返りを行い、これからの自身の活動の方向を見つけて行きたいと思っています。

△これまでの振り返りと今後について▽

1、精神障害者との出会いからアパート退院へ

1971年、私にとって初めて精神病院と云う場に行き、入院中の方々とのお出会いとなった。大阪府に入職する前の1年間、保健所で在宅の精神障害者(?)への訪問調査等非常勤で関わらせていただいた。

精神病院の状況は現在の状況とはかなり異なり、病院と云うよりは大部屋での集団生活であり、そんな中で様々な状況を見ることになった。中でも、入ったばかりの若い職員が鍵を持ち、中におられる方々との立場の相違を複雑な想いで感じる日々であった。

病院が生活の場ともなっている方々との日々の付き合いを通じて、日本の精神医療状況について考え、悩み、外部も含めて色々な職種・立場の方々とも出会い、変革して行くことの必要性を痛感しました。

病院には経済措置と云われる措置入院の方々が多くおられ、彼らの措置解除の動きをPSWが行うことが多くありました。話し合いの中で、措置解除が退院や社会復帰につながるものであることを理解しつつも、簡単に応じていただける家族状況ではないことを痛いほど聞かせていただいたりもしました。

措置解除の動きの中から、家族の長年に渡る苦悩等を沢山聞かせていただき、一方では、強制入院を続ける必要がなく社会復帰を強く望んでおられるご本人たちとも、沢山の尽きることのない話を聞かせていただきました。

こんな中で「開放病棟」では、生活保護等で入院されているお元気な方々と多く出会い、退院、退院後の新たな生活への夢、社会に出

て普通の生活がしたい・・・

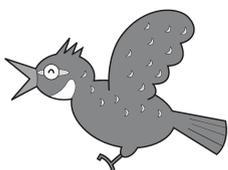
医療センターの開放病棟で始まったアパート退院・退院者の会の動き等が、枚方でアパート退院と云われる病院周辺への退院、及び病棟スタッフによる退院後の生活支援の動きでした。大阪では1975年頃からアパート退院・退院後の行き場づくり等があちこちで立上って来ました。この動きが、退院者の会の発足——つまり場の確保——ボランティア等による、生活者への支援・関わりへと広がって行きます。

2、精神障害者の生活の場づくりを考える市民の会の発足と当事者の変化

市民ボランティアに協働してもらいながら、当事者(スタッフ)として社会生活を取り戻して行く方々
活き活きと活動しつつも、しんどさも出てくる。市民ボランティアの大きな協力も加わり地域での協働を進める。

2001年、枚方市精神障害者地域生活支援センター陽だまりが発足。

当事者スタッフと協働しての場づくりの動きが始まる。



(次ページに続く)

3、精神障害者も含めて障害者施策の変遷と、その中で支援者⇄当事者等の関係の変化特に、自立支援法(2005年)⇄総合支援法(2012年)への移行等がもたらす関係性の変化等

障害者施策・事業が誰もがが行える事業として多様な事業主体が参入し、利用者⇄事業提供者となりがちな現在の流れの中で様々な問題も発生しています。

精神障害者の想いに寄添い共に動くこと、その事で変わる人の意識や関係性を大事にしながら始まった陽だまりの会の活動ではありませんが、この10年余しの障害者を取り巻く法制度の変化や、その事に伴う精神障害当事者と云われる方々の多様化。何よりも、障害分野での地域で期待されている役割等の拡大・多様化等により、私自身が、当初の様な当事者と云われる方々に沿わせてもらいつつ動く動き方が難しい状況になっていました。

今一度、精神障害者状況を見ながら、一人一人の方々のニーズを聞き取り、本人・家族の方々と共に何をすべきか——求められている事は何なのかを、ゆっくりと考えて見ることが必要ではないかと考えています。

枚方では、自立支援協議会の中に、精神障害

者地域生活支援部会を設置・運営しています。

部会活動の中心となっている市内医療機関への訪問面接は、医療機関で入院継続をされている方々との接点ともなっており、他市と比べて医療と地域をつなぐ包括的支援状況を作って行くための大きな動きとなっております。今後、未だに多くの方々が入院を余儀なくされている状況にある中で、私自身大きなツールと考えています。

相変わらず続く入院者の長期在院と地域移行の課題を中心に、地域で生きる障害者への生活に沿った関りを、今後も引き続き枚方で陽だまりの会をベースとしながら、様々な方々と出会い、出来る事をして行きたいと思っています。

粘り強く共に頑張りましょう。

ひとりで悩んでいませんか?

心の病の患者さんを抱えている家族の方ひとりで悩んでいないで...
あなたはもうひとりでぼっちではありません!
同じ家族の立場で電話相談員があなたの悩みをお聞きします。



大家連 電話相談室

☎ 06-6941-5881

電話相談 日 月～金 11:00～15:00

(祝日・お盆・年末年始は休みます)
(コロナ発生状況により変更あり)

家族の思い

家族会との出会い

ペンネーム 楽々

娘がうつを発症したのは、私が定年退職し、さあーこれから私の第二の人生、やりたい事しようとして走り出した翌年。

娘は学校卒業後勤続十年目、二人目の子どもの育休明けで職場復帰、一年過ぎた頃、うつで近所の心療内科を受診していると聞き、病院へ同行しました。

診察室では、先生と患者の間隔が2メートル以上あり、何回か一緒に行きましたが、「これは?？」と思い、他のクリニックに転院、次の先生はパソコン画面に向かって一度も患者の顔を見ない先生。うつの薬を処方され、それでも数か月後、車の免許を取りたいという娘に先生の許可があり、免許を取りました。

ある日、待合室で「よくしゃべるナー」と感じ先生に伝えました。2、3週間たった診察後、テンションが高いので気持ちを落ち着かせようと、クリニック近くの大坂城公園に連れて行ったのが間違い!様子が急変し、ひどい躁状態に。話がまるでかみ合わない。私に向かって「あんたは親ではない!あっちへ

行け！」と、その様子に周りの人もビックリ。

これでは電車で帰ることも出来ないのので、先程、診察してもらった先生に電話。先生から「入院させてください」と病院を紹介され、娘の夫に迎えに来てもらい、何がなんだか分からなまま入院になりました。

娘の病気は私が治す！との思いで、毎日面会に行き、入浴も心配で病院の許可をもらい、一回だけ一緒に入りました。(この事は後に病院で有名な話に)

少し落ち着いてからは、中庭でバドミントンをしたり、編み物をしたり一緒に外へ散歩にも連れ出しました。

今、考えても家に残された4才と2才の子どももの世話を誰がどうやってたのか私の記憶から飛んでいます。

退院後しばらく休職し、短時間の勤務から職場復帰しましたが、結局うまくいかず退職。少し落ち着いてパートの仕事、保育所に預けながらの子育てもできていましたが、時々調子を崩し数回入院しました。

5年位前にひどい躁状態が出て、荷物を持って1週間位家出。知人宅に泊まり夜通ししゃべっていたそうです。お金が無いのにタクシーに乗り、無賃乗車で警察に。そして入院となりました。(躁状態になる前は服薬をやめてい

たそうです)

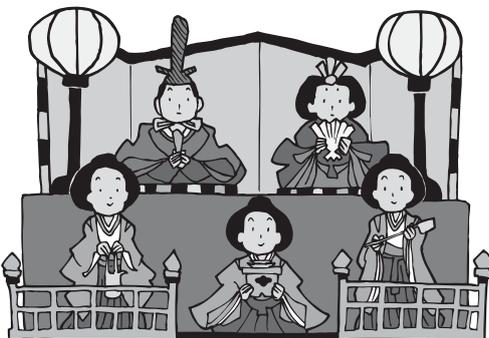
そんな大変な時に、私は病院の待合室で見つけた家族会のチラシを握りしめ、即電話を。「明日面談がありますが、来られますか？」と言われ、ワラにもすがる思いで今までの辛い思いを4時間位聞いてもらい、障害年金の事も教えてもらいました。

家族会につながり講演会などに参加し、病気のこと家族の対応などたくさん学びました。

家族会につながる前は娘がこんな状態なのに親が自分の趣味を続けることに罪悪感がありました。家族が生きがいをもち、元気で余裕がないと娘にもよくないと聞き、「私は今のままでいいんだ！」と、心がすごく軽くなったのを覚えています。

娘もこの4〜5年、波はありますが、大きく調子を崩すことなく過ごせています。

去年、大家連の電話相談のボランティアにと背中を押され、私が一番苦しい時に助けてもらったという思



いも強く、私にできることならと不安はありましたが参加させてもらっています。

電話相談では大変な相談もあります。一緒に涙することも一緒に怒ることもあります。「お役に立てましたか？」とお聞きすると、「思いを聞いてもらい気持ちが悪くなりました、ありがとうございます」と言われるとうれしくなりますし、ある時は当事者の方に「貴方を抱きしめてあげたい！」と思わず口をついて出た時もありました。

病気の事もっと知りたい、もっと勉強したいと思つて引き受けたボランティアです。

こうしなければいけない、こうすべきだという世間常識に固まっていた私ですが、苦しんでいる当事者、家族の方に「あなたはあなたでいいんだよ！そして、こんな社会資源があります。当然の権利ですよ！」とお知らせしたいと思うようになりました。共感してくれる人がいることがどんなに大事かということも知りました。

家でも娘の話をゆっくり聞けるようになりました。でもちよつとしたことでも言い合ひになることもあります。そんな時はその場を離れる。こちらから「ゴメンネ、貴女も辛いのに」とメールや直接言葉であやまり、治まっています。まだまだ途上ですが・・・

家族の恩い

病気の娘を持つて

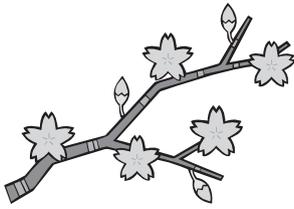
(T・H)

現在23歳の娘は、16歳の時に病気を発症しました。当初、通い始めたクリニックでは統合失調症と診断され、転院した今の病院では発達障害・軽度知的障害と診断され障害者手帳1級の認定を受けてます。

発症当初は、部屋に引き籠り昼夜逆転、何か月もお風呂に入らないので髪の毛が汗と脂で固まってしまおうと言う状態でした。初めての経験で戸惑い、どうして良いかわからない日々が過ぎていきました。

そんな日々を過ごすうちに少しずつ話をする様になり「心の病気を治してくれる病院に行こう」と最初のクリニックに通い始めました。病院の間診票に「死にたいと思ったことはありませんか?」の質問に「はい」と答えている娘に「あーこんな思いをさせてたんだ」と驚くとともに酷く落ち込んだのを覚えています。

クリニックに通い始めたころはお薬が合ったのか、一旦、



劇的に良くなり病状は回復しました。ところが、冬になると急激に状態が悪くなりました。その後、2〜3年は冬になれば状態が悪くなり春過ぎに良くなるという状態が続きました。

病状はと言うと、改善するよりも少しずつ悪くなっている印象です。クリニックへ通う日々ですが、お薬の量は増えていきお薬を飲むと布団から出なくなったり酩酊のような状態になったり。お薬を飲まない状態は悪くなる、お薬を飲んでも何か様子がおかしい、ただ、病気に関する知識がない私たちにすればお医者さんの言われることなので信じるしかないかな?と。

とは言え、病気の子どもを見ていくということは口で言うほど簡単なことでなく、時には逃げ出したくなるものです。ある日、「短期間入院して病気に対処する方法もあるのでは?」と話を聞く機会があり主治医に相談するも短期間で入院できる病院はないと言われました。(今となっては任意入院と言う言葉も知り、あの当時の主治医の話は何だったんだろう・・・と思っています。)その後、粘り強く相談を続けたところ、今、お世話になっている病院を紹介して頂きました。

2017年1月に転院後、任意入院で入院しましたが、病棟で暴れ病院では面倒見切れ

ないと一週間で退院する様に言われました。また振り出しに戻ったわけです。娘の両親である私と母親は離婚しているのですが、子どもの病状が良くなるためにと、お互い仕事をセーブし出来るだけ娘を一人にしないよう努めていました。それが奏功したのか季節が良くなったのか、一旦、病状は回復しました。

ところが、やはり冬が近づくと状態は不安定になり、その不安定な気持ちで晴らす手段のひとつとして一つ下の妹に暴力をふるう様になり妹にも辛い思いをさせてしまいました。

やはり冬になると状態は悪くなり、2018年1月に再入院となりました。当初、任意入院で入院するも、また病棟で暴れるなどの行為があった為、保護入院に切り替わりました。その間、何度も隔離拘束される娘の姿を見てはどうしてあげられることも出来ずもどかしい日々を過ごしました。そのうち状態も落ち着いてきたので2018年7月退院できました。ところが、秋口には不安定な状態に戻りました。

2018年11月に任意入院で再々入院となりました。早めの対処を目的に入院したので入院当初は落ち着いていた状態が続きました。いつまでも親が生きていないので娘の将来の独立を目指し、退院後はグループホームに入り、

その後一人暮らしを目指して行こうと話が出るまで回復するに至りました。お世話になるグループホームも決まり、いよいよ退院すると言う前日に突然不安定になり保護入院となりました。またまた振り出しに戻ったということですが。この保護入院中も相変わらず病棟で暴れ隔離拘束されることもしばしばありました。

2019年5月に隔離拘束された夜に主治医から電話が入り、「保護入院に切り替えて3か月経ったので退院して欲しい」と。その日は酷い状態で看護師10人ぐらいで何とか隔離したと看護師さんから聞いてました。その夜に退院を勧告される・・・目の前が真っ暗になりました。

困り果てた私は区役所に相談に行きました。「主治医が退院と言われるなら退院ですよ」と言われる始末。途方に暮れていた時に家族会の存在を知り、藁をも掴む気持ちで家族会に参加しました。

家族会では、お互いの悩みを相談されている、同じような悩みを持つ先輩方の経験を聞いたり、そして何より私の悩みを聞いて頂きアドバイスを頂きました。病気や薬に関する知識や具体的な対処方法など病院や区役所では教えて頂けないことを教えて頂けたりもし

ました。私自身は、家族会との出会いで次第に気持ちも楽になっていきました。

その後、多少の浮き沈みはありましたが、その都度、家族会に相談をすることで一つずつ問題を解決していきました。以前の私のように何処に相談したらいいかわからない方も沢山いらつしやると思います。そういった方々に家族会の存在をお伝えしていきたいなあと思っています。

娘は2020年10月より一人暮らしを始め、今のところ順調に過ごしています。この病気は、ちょっとしたきっかけで状態は不安定になるので、まだまだ安心はできませんが・・・

精神障害者を持つ方の

配偶者・パートナーの集い

日時 偶数月の第2日曜日 午後10時～12時
 奇数月の第2日曜日 午後1時半～3時半
 場所 アネックスバル法田坂A棟4階
 大家連事務所あるいは同フロア「ひこうせん」で
 申込 不要(気軽に参加ください)

おしゃべりカフェへのお願い

日時 偶数月の第2日曜日 午後1時半～4時
 場所 アネックスバル法田坂A棟4階
 大家連事務所あるいは同フロア「ひこうせん」で
 申込 不要(気軽に参加ください)

※ただし、コロナ感染者状況などから判断して、中止、場所の変更となる場合がありますのであらかじめ大家連事務局までお問い合わせください。

TEL06・6941・5797

※大阪府下に警報が午前10時に出ている場合は休会とします。

署名協力のお礼

「精神保健医療福祉の改善を求める国会請願署名」(公益社団法人 兵庫県精神障害者家族会連合会) へのご協力ありがとうございました。

466筆(2月15日現在) が集まりました。予想以上の反響で、ご住所をみて家族会で短期間に一生懸命集めていただいたのだろうなどそのご苦労と熱い思いに感動しながら集計した次第です。

私たち家族と当事者にとって、一番の願いは精神医療福祉の本質的な改善で、安心できる医療の実現です。

大阪は精神医療の在り方を問われる大和川病院事件の地元であり、この神戸の神出病院事件と問題の根っこは同じです。家族会が県域を越えて協力し、改革の大きなうねりとなることを願ってやみません。これを機に大家連も、精神医療改革への働きかけを協議してゆきます。

今後も皆様のご協力よろしくお願い致します。
 (文責 大野素子)

2020年度の賛助会費報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。
 賛助会費 (1口3千円/年)として
 6人分 6口

(寄附)

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

氏名	地域	金額
池田てしま会	池田市	5,000円
仲宗根康江	吹田市	20,000円
東香里第二病院	枚方市	10,000円
青山洋	阿倍野区	2,000円
松村クリニック	枚方市	10,000円
稲垣診療所	岸和田市	5,000円
野原 勇	天王寺区	3,000円
松村昇	東淀川区	3,000円
山本幸弘	住吉区	27,000円
やまもとクリニック	西区	10,000円
中西クリニック	旭区	10,000円
木下清美	堺市	3,000円
松井多喜子	吹田市	5,000円
季 利彦	松原市	10,000円
メンタルクリニックおかた	阿倍野区	30,000円
木村診療所	高槻市	10,000円
キム診療所	東成区	10,000円
箕面神経サナトリウム	箕面市	30,000円
京谷クリニック	西区	10,000円
星のクリニック	高槻市	10,000円
豊中ゆたか会	豊中市	10,000円
いとうまもる診療所	泉南郡	10,000円
小阪病院	東大阪市	30,000円
にいがわクリニック	富田林市	10,000円
高槻さつき会	高槻市	10,000円
野崎クリニック	豊中市	5,000円
山内眞治	阿倍野区	10,000円
白石弘巳	東京都	10,000円
阪南病院	堺市	30,000円
古澤 馨	八尾市	3,000円
もりかど家族の集い	門真市	3,000円
松本秀子	城東区	10,000円
東 荒子	鶴見区	50,000円
井上恵子	東淀川区	10,000円
東 泰敬	泉佐野市	1,000円
国分病院 木下秀夫	柏原市	100,000円
吹田のぞみ家族会	吹田市	10,000円
名古屋大学大学院 医学研究科 精神医学	名古屋市	10,000円
河野昭代	三島郡	10,000円
かく・にしかわ診療所	中央区	10,000円
阿草良子	豊中市	10,000円
小池診療所	豊中市	10,000円
児島進子	枚方市	100,000円

(令和2年10月26日～令和3年2月16日)

編集後記

新聞に「家ではネジが作れない」という記事があった。リモートや在宅勤務が推薦されている現状に、町の工場で働く職工さんをとらえたものだ。日本の産業経済は大企業や会社で保っているものではない。ほんとうに小さな企業が寄り集まって支えていることを忘れてはならないコロナ政策である。(編集委員 奥村)

中国の武漢市から始まったとされる新型コロナウイルス問題も、去年の二月から始まってもう一年が過ぎます。当時こんなに長引く問題ではなく、人類の知恵で簡単に解決出来るものと軽く思われていました。一年経過した今、振り返るとウイルスとの大戦争の始まりかもわかりません。人類の一番の弱点である呼吸器に目をつけられた点です。

人類にとって最も大切で、水が無いと生きていけないさかなクンと同じで、陸に上げられた魚がどんなに苦しい思いをして死んでいくのか、その恐怖を想像してみてください。目のつけ処が実に適格で、まとを得ています。これは人類とウイルスとの一大戦争の始まりかもわからないと空想の世界に入り込んでしまします。いや、空想であってほしいと願ってやみません。それにしても素早く巧みな変異の方、これは空想であって欲しいけれど現実なのです。あまりにもうまく出来すぎています。改めて自然界の偉大さを痛感する。コロナとの戦いは他人事ではありません。感染した時の苦しみ、呼吸器の苦しき、息の出来ない苦しき、を想像してください。どんなに苦しいか笑事では済まされない真剣さが必要です。(編集委員 藪地悦夫)



2020年度の共同募金配分金54.1万円が決定しましたのでお知らせします。
 共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。
 寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。
 又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします

編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之
 連絡先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 アネックスパル法円坂 (A棟4階)
 Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135
 ホームページ daikaren.org だいかれん で検索もできます
 振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会
 定 価 1部100円 (大家連家族会費には購読料を含む)



発行人 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

一九九六年五月一日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行